

# 平成22年度「校務の情報化に関するアンケート」調査結果

平成24年3月  
群馬県教育委員会義務教育課

群馬県教育委員会義務教育課では、校務支援システムの導入効果を検証するため、校務の情報化に関するアンケート調査を実施し、その結果をとりまとめました。

なお、本調査における「校務」とは、「授業および部活動の指導を除く学校事務」のことを指します。

## 調査概要

- 1 調査項目（別紙アンケート用紙参照）  
時間外勤務の実態と多忙感  
校務に対する負担感  
校務支援システムの活用による効果  
校務支援システムに対する期待
- 2 調査対象  
校務支援システムが導入されている県内市町村立小・中・特別支援学校の教職員  
（市町村教育委員会の実施希望による）  
回答者総数 3,104人（10市町189校 小学校125校、中学校61校、特別支援学校3校）
  - ・校種 小学校（1,957） 中学校（1,043） 特別支援学校（104）
  - ・性別 男性（1,444） 女性（1,548） 無回答（112）
  - ・年代 20歳代（402） 30歳代（584） 40歳代（968） 50歳以上（1,136） 無回答（14）
  - ・立場 校長（133） 教頭（179） 教務主任（165） 教諭（2,289） 養護教諭（137） 栄養教諭（4） 事務職員（134） その他（51） 無回答（12）
  - ・担任 担任（1,782） 担任外（1,273） 無回答（49）
- 3 調査期間  
平成23年3月7日～18日
- 4 調査方法  
SQSによるマークシート方式のアンケート調査

## 結果概要

- 1 9割以上の教職員が時間外勤務をしており、平日では「1時間以上2時間未満」と「2時間以上3時間未満」の合計が6割を超えている。また、休日では「1時間未満」と「1時間以上2時間未満」の合計が5割を超えている。
- 2 約9割の教職員が多忙感を感じている。
- 3 「通知表作成」と「指導要録作成」に負担を感じている教職員が特に多い。また、「報告書等作成」、「保護者対応」、「打ち合わせ・会議」、「週案簿作成」、「各種通信等作成」などにも負担を感じている。
- 4 「出席簿作成」に負担を感じている教職員が大幅に減少した。
- 5 校務支援システムの活用は、「出席簿作成」、「通知票作成」、「指導要録作成」、「日誌・予定表作成」、「打ち合わせ・会議」などにおける負担軽減につながり、「時間外勤務の減少」や「授業準備（教材研究）時間の増加」などの効果が現れ始めている。

## 調査結果

### 1 勤務時間外に校務をする時間

#### (1) 平日の勤務時間外に校務をする時間（家庭への持ち帰りも含む）

- ・約98%の教職員が、平日の勤務時間外に校務を行っている。
- ・「1時間以上2時間未満」が最多で、次に多いのは「2時間以上3時間未満」。
- ・「1時間以上2時間未満」と「2時間以上3時間未満」の合計は、6割を超えている。

平日の時間外校務	H22	H21
0時間	1.6%	1.2%
1時間未満	14.8%	14.5%
1時間以上2時間未満	32.0%	34.4%
2時間以上3時間未満	28.7%	26.6%
3時間以上4時間未満	14.1%	13.5%
4時間以上	8.3%	6.9%

#### (2) 休日に校務をする時間（家庭への持ち帰りも含む）

- ・約92%の教職員が、休日にも校務を行っている。
- ・「1時間以上2時間未満」が最多で、次に多いのは「1時間未満」。
- ・「1時間未満」と「1時間以上2時間未満」の合計は、5割を超えている。

休日の時間外校務	H22	H21
0時間	7.4%	8.8%
1時間未満	23.7%	24.3%
1時間以上2時間未満	28.4%	26.6%
2時間以上3時間未満	19.8%	18.8%
3時間以上4時間未満	10.4%	9.3%
4時間以上	9.8%	10.8%

休日を含め、勤務時間外に校務をしている教職員が非常に多く、時間も長い。これらのことが、多忙感を感じる原因にもなっていると考えられる。

### 2 校務が忙しいと感じているか（多忙感）

- ・平成21年度調査に比べ、多忙感を感じている教職員は若干減少したものの、約9割が多忙感を感じている。
- 「感じる」は「とても感じる」と「やや感じる」の合計、「感じない」は「あまり感じない」と「まったく感じない」の合計である。

#### 多忙感

	H22	H21
感じる	89.6%	91.2%
感じない	8.7%	7.7%

校務支援システムによって一部の校務負担が軽減されても、他の校務が多くあるため、多忙感の解消を実感するまでにはいたっていないと考えられる。

### 3 負担を感じている校務

- ・負担を感じている校務は、以下の順となっている。
- 下線は、昨年度より割合・順位とも下がった項目
- ( )内は平成21年度調査からの増減

通知表作成(+2.2ポイント)  
指導要録作成(-4.8ポイント)  
 報告書作成(-3.8ポイント)  
 保護者対応(-2.9ポイント)  
 打ち合わせ・会議(+1.4ポイント)  
週案簿作成(-4.7ポイント)  
 各種通信等作成(-1.1ポイント)  
 文書收受(+0.4ポイント)  
 調査書作成(-3.8ポイント)  
出席簿作成(-7.1ポイント)  
 日誌・予定表作成(+1.1ポイント)  
各種名簿作成(-3.0ポイント)

負担を感じている校務	H22	H21
通知票作成	45.1%	42.9%
指導要録作成	42.8%	47.6%
調査書作成	12.5%	16.3%
出席簿作成	9.3%	16.4%
週案簿作成(時数管理)	27.4%	32.1%
HP作成・更新	7.8%	9.7%
各種名簿作成	8.4%	11.4%
報告書等作成	36.5%	38.5%
文書收受	15.6%	15.2%
日誌・予定表作成	8.9%	7.8%
打ち合わせ・会議	28.0%	26.6%
保健統計処理	4.2%	5.1%
保護者対応	29.7%	32.6%
各種通信等作成	25.4%	26.5%
旅費等の申請・支給	5.1%	6.0%

選択肢として示した15の校務のうち、11の校務で負担を感じる教職員の割合が下がった。特に「出席簿作成」に負担を感じる教職員の割合が大きく下がった。また、「指導要録作成」、「週案簿作成」、「出席簿作成」、「各種名簿作成」に負担を感じている教職員の割合と順位がともに下がった。これは、校務支援システムが効果的に活用され始めたためと考えられる。

- 4 校務支援システムで処理している校務
- すべての項目において、システムで処理している割合が増加した。
  - システムで処理している校務は、以下の順となっている。

( )内は平成21年度調査からの増減

- 出席簿作成(+20.3ポイント)
- 通知票作成(+22.7ポイント)
- 指導要録作成(+19.8ポイント)
- 打ち合わせ・会議(+8.4ポイント)
- 各種名簿作成(+7.2ポイント)
- 日誌・予定表作成(+11.1ポイント)
- 文書收受(+7.8ポイント)
- 調査書作成(+5.5ポイント)
- HP作成・更新(+2.9ポイント)

システムで処理している校務

校務	H22	H21
通知票作成	55.6%	32.9%
指導要録作成	44.8%	25.0%
調査書作成	14.6%	9.1%
出席簿作成	56.5%	36.2%
週案簿作成(時数管理)	6.0%	4.6%
HP作成・更新	11.2%	8.3%
各種名簿作成	25.0%	17.8%
報告書等作成	10.5%	5.0%
文書收受	21.9%	14.1%
日誌・予定表作成	23.4%	12.3%
打ち合わせ・会議	26.5%	18.1%
保健統計処理	9.2%	5.7%

「出席簿作成」、「通知票作成」、「指導要録作成」での活用率の増加が著しい。

- 5 校務支援システムによって負担が減少した校務
- すべての項目において、負担が減少したと感じている割合が増加した。
  - システムにより負担が減少した校務は、以下の順となっている。

( )内は平成21年度調査からの増減

- 出席簿作成(+20.7ポイント)
- 通知票作成(+16.2ポイント)
- 指導要録作成(+14.8ポイント)
- 日誌・予定表作成(+8.9ポイント)
- 打ち合わせ・会議(+4.3ポイント)
- 各種名簿作成(+2.8ポイント)
- 文書收受(+3.6ポイント)
- 調査書作成(+3.8ポイント)
- HP作成・更新(+2.3ポイント)

システムによって負担が減少した校務

校務	H22	H21
通知票作成	36.0%	19.8%
指導要録作成	29.6%	14.8%
調査書作成	7.5%	3.7%
出席簿作成	44.8%	24.1%
週案簿作成(時数管理)	3.2%	2.1%
HP作成・更新	4.0%	1.7%
各種名簿作成	10.6%	7.8%
報告書等作成	3.5%	1.5%
文書收受	8.2%	4.6%
日誌・予定表作成	12.9%	4.0%
打ち合わせ・会議	12.3%	8.0%
保健統計処理	2.6%	1.4%

「出席簿作成」、「通知票作成」、「指導要録作成」において、校務負担軽減の効果を感じている教職員の割合が大幅に増加した。

- 6 校務支援システムの活用による効果
- すべての項目において、システム活用による効果を感じている割合が増加した。
  - システムの活用による効果は、以下の順となっている。

( )内は平成21年度調査からの増減

- 時間外勤務の減少(+11.1ポイント)
- 授業準備(教材研究)の増加(+8.2ポイント)
- 作品等を見る時間の増加(+5.5ポイント)
- 子どもとふれ合う時間の増加(+4.2ポイント)
- 部活動の指導時間増加(+2.8ポイント)

システムの活用による効果

効果	H22	H21
子どもとふれ合う時間増加	9.0%	4.8%
部活動の指導時間増加	5.3%	2.5%
授業準備(教材研究)増加	17.8%	9.6%
作品等を見る時間増加	11.6%	6.1%
放課後の補習等増加	2.4%	1.3%
時間外勤務減少	24.8%	13.7%
その他	13.2%	8.7%

「時間外勤務(持ち帰りを含む)の減少」、「授業準備(教材研究)時間の増加」、「作品やノート等を見る時間の増加」などが効果として感じられている。特に、「時間外勤務(持ち帰りを含む)の減少」、「授業準備(教材研究)時間の増加」を効果として感じている教職員の割合が大きく増加した。校務支援システムの操作方法や活用方法が定着すれば、さらに高い効果が現れてくると思われる。